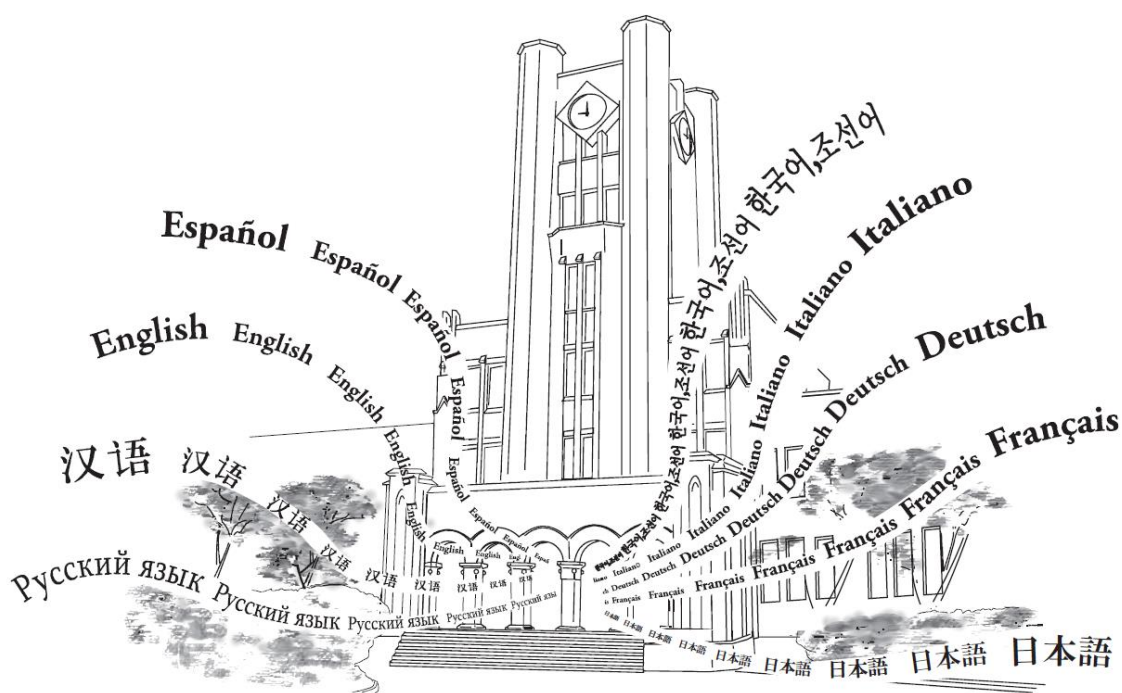


2025 年度

外国語の学習について

— 外国語選択の手引き —



東京大学教養学部

外国語委員会

目 次

外国語学習の勧め	1
英語	2
ドイツ語	3
フランス語	4
中国語	5
ロシア語	6
スペイン語	7
韓国朝鮮語	8
イタリア語	9
日本語	11

必修外国語以外に履修可能な第三外国語の開講実績(2024 年度)

- | | |
|--------------|---------|
| ○アラビア語 | ○ヒンディー語 |
| ○インドネシア語 | ○ベトナム語 |
| ○広東語 | ○ヘブライ語 |
| ○上海語 | ○ペルシア語 |
| ○セルビア・クロアチア語 | ○ポーランド語 |
| ○タイ語 | ○ポルトガル語 |
| ○台湾語 | ○モンゴル語 |
| ○トルコ語 | |

異文化体験としての外国語学習——外国語学習の勧め

第40代教養学部長 真船 文隆

東京大学の学生は、学士課程前半の前期課程において、所属科類にかかわらず、また後期課程における専門分野にかかわらず、二つの外国語を「必修外国語」として学びます。本学の前期課程のカリキュラムは、その必修外国語を入学以前の学習経験の有無によって「既修外国語」と「初修外国語」とに大別しています。外国語の標準的な履修形態は、既修外国語として英語（留学生の場合は日本語）を選び、初修外国語としてドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・韓国朝鮮語・イタリア語の7つの言語の中の一つを選ぶというのですが、入学以前の外国語学習経験などによっては、他の組み合わせにすること（たとえば、留学生の場合に、既に学んだ英語と日本語との組み合わせとすること）もできます。また、これら二つの外国語に加えて、もう一つの言語を「第三外国語」として履修するという選択肢もあります。外国語教育の幅広さを誇る教養学部では、第三外国語として、アラビア語、ポーランド語、モンゴル語など多様な外国語を学べます（必修外国語以外に、第三外国語として履修可能な言語のリストについては、本冊子の目次を確認してください）。

大学における学習は、必ずしも入学を機に始まるものではありません。というのも、入学以前の受験勉強において、受験生は本学の入試の出題傾向を意識するからです。とはいえ、受験生が受験勉強の中で大学における学習が始まっていると自覚することはないかもしれません。それが今始まろうとしていると学生がはっきりと自覚するのは、本学の場合には入学手続きの一環として初修外国語を選択するときではないでしょうか。

ではなぜ大学入学後に新たにもう一つの外国語を学ぶ必要があるのでしょうか。確かに、一つの外国語の学習経験さえ持てば、言語によって文法構造が異なるのみならず、単語も決して一対一に対応しないことにも気付くでしょう。しかし、特定の外国語を一つ学習しただけでは、母語とそれとが異質であることは認識できても、第三の言語を学習しなければ、人間の言語の多様性は感得できません。測量法に三角測量がありますが、ここでみなさんが習得するのは言語の三角測量であり、ひいては文化の三角測量です。さらにいえば、それは「三角」で完結してよいものでなく、四角測量、五角測量、等々に展開・拡張されるべきものなのです。

大学教育における良質な異文化体験として、外国語学習に優るものではありません。言語を通じて論理的思考、規範的評価を行う人間にとって、言語はその文化的アイデンティティの核心をなすものです。それゆえに、言語によってどのような主張を行うにせよ、文化圏を超えて通用する説得力を持つには、言語表現の持つ精密さに敏感でなければなりません。教養学部において外国語を学ぶ機会を得た皆さんには、それだけの語学力を身につけて多文化共生の人類社会において豊かな人生を生きてもらいたいと願います。

英 語

現代の世界において、英語がたいへん重要な役割を果たしていることは、多くが認めるところでしょう。国際的な交流・交渉の場では英語で意思疎通が行われることも多く、学術研究でも、自然科学、社会科学、人文科学など分野を問わず、研究成果が英語で発表・出版されています。また、インターネットの言語としても、英語は大きな割合を占めています。

他方、英語は、こうしたグローバルな共通語としての側面ばかりでなく、英語圏の社会や歴史を色濃く反映する文化的側面も持っています。英語を学ぶことは、様々な分野での活躍の下地を築くと同時に、英語圏の豊かで多様な文化についての理解を深めることでもあるのです。外国語としての英語のこのような二つの重要な役割を考え、教養学部では、以下のような特色ある英語の授業を開講しています。

- ・ 英語一列（教養英語）：教養学部英語部会が東京大学の学生のために独自に作成した統一教科書と、それに関連する音声教材やワークシートを用いて行われる授業で、1年生の間に2ターム履修します。教科書は、文系・理系のさまざまな分野に関わるトピックをとりあげ、大学生にふさわしい知的な内容を持つ文章を扱っています。この授業では習熟度を考慮した指導を行います。
- ・ 英語二列：口頭で意見を発表したり議論したりする能力の涵養を目指すFLOW(Fluency-Oriented Workshop)と、理科生、文科生がそれぞれの分野の英語学術論文の基礎を学ぶALESS（Active Learning of English for Science Students）とALES(AActive Learning of English for Students of the Arts)からなります。FLOWを1ターム、ALESSまたはALES(AActive Learning of English for Students of the Arts)を1セメスター履修します。
- ・ 総合科目L系列（国際コミュニケーション）：多様な英語科目群の中から、関心のある、あるいは自分が必要としている授業を選択して2科目以上履修します。L系列の英語科目には、中級と上級が用意されていますので、習熟度に合わせて履修することが可能です。

なお、英語に初修クラスはありませんが、非英語圏からの留学生および入試を英語で受験しなかった学生で英語の履修を希望する人のために、英語特別クラスが開設されています。詳しくは入学後に配付される『履修の手引き』を参照してください。

ドイツ語

「難しそう」「堅苦しい」あたりが、ドイツ語の一般的なイメージでしょうか。カント、ゲーテ、ベートーヴェン、ガウス、コッホ、アインシュタインの名前から連想されるように、哲学、文学、音楽、自然科学など、さまざまな分野でドイツ語は屈指の学術言語でした。今も「アルバイト」「リュックサック」「バウムクーヘン」「ゲレンデ」など、日本語に定着している単語は多いのに、オシャレな雰囲気フランス語や、将来いかにも役立ちそうな中国語、地理的にも文化的にも馴染みの深い韓国朝鮮語、グローバルで陽気なイメージのスペイン語などと比べると、ドイツ語はちょっと分が悪いような気がします。

でも、はじめに強調しておく、ドイツ語は、同じゲルマン語族の英語と共通点が多く、みなさんにとって比較的学びやすい言語なのです。発音は基本的にほぼローマ字読みだとか、比較的柔軟に語順を変えることができるとか、日本語ともよく似た特徴を持っています。たとえば、「Ich habe ein Buch.」というドイツ語の文を英語にすると「I have a book.」ですが、「本」に焦点を当てたければ「Ein Buch habe ich.」とも言えます。発音も文法も規則性が高いドイツ語を学ぶと、綴りと発音の関係が複雑だったり、語順に関して融通が利かなかったりする英語が、初学者にとっていかにハードルが高い言語だったか実感できるはず。その一方で、ドイツ語には古い時代の英語の特徴を残している面もあるので、ドイツ語を学ぶと、皆さんが今まで英語で感じてきた「なぜ？」の謎が解けるでしょう。

ドイツ語はドイツだけでなく、オーストリアやスイスなどの公用語でもあります。ドイツ語を母語として話す人口は、全世界で約1億人と言われ、EUで最多の母語話者数を誇ります。ドイツは欧州における経済的・政治的中心国ですし、環境問題や難民政策など、アクチュアルでグローバルな問題にも積極的に取り組み、重要な役割を果たしています。過去だけでなく、ヨーロッパの〈現在〉を知るために、ドイツ語はとても有効です。演劇学やメディア研究など独自の学問も発展しています。また、今や世界中で観られている日本のアニメには、なぜかドイツ語がたくさん登場します。『葬送のフリーレン』のキャラの名前が、すべてドイツ語から取られていることはよく知られているでしょう。

ところで、ドイツのほとんどの大学では学費が基本無料なのでとてもお得！ 将来海外留学を検討している人には絶対にお勧めです。オペラやオーケストラを聴いたり（ドイツの学割チケットは割引率が高い！）、本場のビールとソーセージでオクトーバーフェストを満喫するのも楽しいでしょう。

ぜひ駒場ドイツ語部会のWebサイトをのぞいてみて下さい（<https://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/v20/>）。練習問題・発音教材など、オンライン教材も充実しているので、予習復習やテスト準備も安心です。必修授業以外にも会話や作文など、さまざまな選択授業が用意されています。特に、ネイティブ教員を中心に集中的にドイツ語を学ぶインテンシヴ・コースを選べば、ドイツでの国際研修（しかも奨学金付き！）参加のチャンスがあります（詳細はhttps://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/outbound/study_abroad_programs/globalpraxis/を参照）。一緒に楽しくドイツ語を学んでみませんか？

フランス語

フランス語は、英語既修者からすればとっつきやすい外国語のひとつといえるでしょう。用いられるアルファベットは同じですし、語彙の面でも、英語ですでおなじみの単語（と似た単語）にしばしばお目にかかるはずです。このことは中世の数百年間、現在フランスとして知られる諸地域で用いられていた言語が、イギリスの上流階級でひろく使われていたことと関係しています。これが英語の成立に大きな影響を与えたことから、フランス語を学ぶことは、英語をより深く、より幅広く理解することにもつながるでしょう。しかしそれでは英語ができればフランス語もできるのかと言えば、そこは別の言語。似たところがありながらも、根本において英語とはまったく別の体系をそなえた言葉のままならなさ面白さを、ぜひ感じてほしいと思います。

かつてフランス語は栄光の言語でした。18 世紀にはヨーロッパ各国の宮廷で用いられ、19 世紀のロシア上流階級では日常、フランス語で会話をするのがあたりまえだったほど。しかしその威光には、20 世紀、両次世界大戦を経てかげりが生じました。英語が世界制覇を遂げたかに見える 21 世紀、なおもフランス語を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか。

もちろん、国際的な地位は失われたわけではなく、国連総会やオリンピックといった折々にうかがわれるとおり、英語に次ぐ公用語としてのポジションを保っています。フランス語話者の数は現在、世界でおよそ 3 億 2100 万人。英語をのぞくヨーロッパ言語としてはスペイン語に続く多さです。アフリカ諸国との縁が深いことも考えれば、将来、国際舞台に立ちたいと希望する人にとって魅力的な言葉であることに変わりはないでしょう。

駒場ではネイティブ・スピーカーの教師による授業や、作文、表現練習の講義も多く用意されていますから、教養学部の 2 年間で実用的な力を養うことは、やる気しだいでおおいに可能です。集中的に実力をつけたい方は積極的にインテンシヴ・コースに参加してください。

また、基礎文法を終えてしまえば、興味津々のテキストとの出会いが待っています。フランス語で綴られた思想や芸術、科学は、いつだって新鮮な驚きと感動を世界に与えてきました。将来どのような専門を志望するのであれ、フランス語を多少なりとも読めることで発想の幅は大きく広がるはずです。

最後に、フランス語の学習は、異国の言葉に触れる喜びをひとときわ豊かに与えてくれることを強調しておきます。セゾンやメゾンやプランタンがフランス語だと知ってびっくりしたり、r の発音の奇妙さに目を白黒させたりするうち、「明晰ならざるものフランス語にあらず」などと豪語することもある言葉の意外な茶目っ気や野放図ぶり、いや、もしかしたら秘密にしておいたほうがよいのかもしれない隠微な側面までもが、少しずつ明らかになるはずです。この言葉に支えられた文化の奥深い魅力を窺い知ることこそ、フランス語学習の醍醐味であるにちがいありません。

中国語

中国語を母語とする人口は、中国大陸の 14 億人に台湾、香港、日本、東南アジアほかの世界各地に住む華人を加えますと、世界の四分の一近くを占めています。なかには広東語や台湾語、上海語のような地域語も含まれますが、わたしたちは最も広く使われる共通語を学びます。

中国語が重要であることは、中国語人口のこうした圧倒的な多さからも明らかですが、さらに今日では、中国の国際的プレゼンスが高まり、とりわけ東アジアを中心とする国際社会のなかで、中国語は英語に次ぐ、国際的コミュニケーション・ツールとしてますます重要になってきました。

2000 年に及ぶ日中両国の相互交流の歴史を振り返ると、江戸時代までの長きにわたって、中国は日本にとって「光は西から」の国であり、常に日本の文化的先達でありました。日本は中国から漢字を輸入した上で、漢字仮名まじりの国語体系を形成しましたが、それとともに漢文の技法を発展させます。

しかし、明治になりますと、時代は「和魂漢才」ならぬ「和魂洋才」となりました。英語、ドイツ語、フランス語などの西洋語が高等教育の基礎言語となる一方、中国語は文化理解のための漢文教育と、実用語学としての「支那語」教育という二元体制のもと、周縁化されていきます。

中国語が、情報伝達・異文化理解・知的訓練の機能をもつ「教養語学」として認められたのは、戦後の一高そして新制東京大学になってからです。しかし、中国語履修者数はわずかに 2 桁前半で推移していました。転機となったのは 1972 年の日中国交回復です。その後、日中経済協力の進展や、中国の改革開放政策もあって、履修者数は徐々に増えていきます。中国の高度経済成長のなかで 1993 年以降、履修者数も急増し、2024 現在では、学生総数の 25%を超えています。

教養学部の 70 年に及ぶ歴史を経て、中国語教育は質量ともに充実するに至りました。現在、前期課程では、1 年生で使用する統一教材が整備されているほか、インテンシヴ・コース（一年次は一般履修に加えて週 2 コマ）のような、より高度の中国語教育プログラムが実施されています。また 2013 年度から、TLP（トライリンガル・プログラム）が始まりました。これは日本語を含む 3 言語を自由に操る人材を養成するプログラムです。2025 年度からは、グローバルリーダー育成プログラム(GLP)で、GLP-II(TLP)が新しく始まります。

グローバル化が叫ばれる今日、中国の存在は、洋の東西を問わず世界中で大きく映じています。人類の文明の新たな可能性がそこにはあるからでしょう。「和魂漢才」から「和魂洋才」へという 2000 年にわたる文明受容の歴史を蓄積した日本に暮らすわたしたちにとって、これは大きなチャンスです。グローバル時代の先にある新しい文明に寄与するための第一歩として、「和漢洋通才」の技法を習得しませんか。

ロシア語

ソ連映画といえば、日本では知る人ぞ知るニッチなジャンルですが、旧ソ連圏の国々で世代や国境を越えて愛される名作が少なくありません。ジョージア（グルジア）出身のソ連映画の巨匠ゲオルギー・ダネリヤ監督の作品『ミミノ』（1977年）もその一つです。ジョージアの山岳地方出身の飛行士ミミノが、就職活動のため訪れたモスクワで、成り行きで行動を共にすることになったアルメニア人のトラック運転手と引き起こす騒動をコミカルに描いたこの映画は、時折ジョージア語・アルメニア語を交えながら、基本的にロシア語で進行します。このロシア語を共通語とする多民族間のコミュニケーションこそが、ソ連映画、ひいてはソ連そのものを成り立たせていたといえます。

19世紀から20世紀にかけて、ロシア語は、ロシア帝国およびソ連という広大な領土と多様な民族を抱える国家の共通語でした。東欧から中央アジアに至る広い地域で今なお通用するだけでなく、上で述べたソ連映画のように、国や民族を超えて共有される豊かな文化を生み出しました。しかし、このロシア語を共通語とする広大な文化圏が、特権的な「ロシア語（人／文化）」と「それ以外」の間の非対称な関係の上に成り立ってきたことも事実です。

その反動として、旧ソ連圏ではソ連崩壊以来「ロシア語離れ」が着実に進んでいましたが、2022年2月のウクライナ侵攻以降、この動きは一気に加速しました。ウクライナをはじめ、モルドバ、バルト諸国など、ロシア国外のロシア語話者の一部が、自らの意志で「ロシア語を話さない」選択をしています。また、世界に名だたるロシアの文学や芸術さえも、その受容の仕方をめぐって意見が分かれるようになりました。このような状況で、ロシア語を学ぶ意味は、どこにあるのでしょうか。

その問いへの答えは千差万別ですが、何よりもまず、ロシア語が築いてきた文化の豊かさは、いかなる暴力や圧政によっても損なわれるものではないことを伝えたいと思います。ロシア語を通じて開かれる広く深い世界は、きっと人生を豊かにするはずです。

第二に、政治的なスタンスから「ロシア語を話さない」ロシア語話者が増えているとはいえ、コミュニケーションのツールとしてのロシア語の役割が終わったわけではありません。むしろ、その必要性は増大しています。冒頭で述べた映画『ミミノ』の主演俳優で、ウクライナでも人気のあるジョージア人俳優ヴァフタング・キカビゼは、侵攻が始まってすぐジョージアからウクライナの報道番組にオンラインで出演し、ウクライナとの連帯を示すメッセージを、ロシア語で発しました。戦争をする国家の言語であるロシア語は、同時に、それに対抗する人々が連帯するためのツールでもあるのです。

最後に、ロシア語を学ぶのは、ロシアという隣人とのコミュニケーションの可能性を絶やさないためでもあります。もちろん、初修外国語としてロシア語を選択した全員が、ロシア語がペラペラになったり、ロシア語を使う仕事についたりするわけではありません（もちろん、そうしたロシア語のエキスパートを目指す人向けに、ネイティブ教員の授業を中心としたインテンシヴ・コースがあります。）。しかし、これからの世界の未来を担う人材がロシア語を学ぶという、その行為自体が、対話を通じた相互理解の芽に他なりません。

ロシア語圏の文化や、ロシア・ウクライナをめぐる国際情勢に関心がある、ロシア語でコミュニケーションがとれるようになりたいなど、明確な理由がある人はもちろん、そうでない人も、思い切ってロシア語の世界に飛び込んでみてはどうでしょうか。たとえ、学んだロシア語の文法をすべて忘れてしまったとしても、「この時代にロシア語を学んだ」という事実そのものが、一生の財産になるはずです。

スペイン語

スペイン語はラテン語から派生した言語の一つで、イタリア語、フランス語、ポルトガル語、ルーマニア語などと姉妹関係にあります。スペインによるアメリカ大陸の征服活動・植民地経営の結果、スペイン語はブラジルを除く中南米 19 カ国でも公用語として用いられることになりました。また、アフリカの赤道ギニアでも公用語とされています。さらに、米国には約 5 千万人（総人口の 15%）のスペイン語話者がいます。スペイン語の母語話者数は 5 億人に迫る勢いで、国際連合の公用語でもあります。多様な社会に直に触れ、深く理解できるようになることが、スペイン語を学ぶ最大のメリットといえるでしょう。スペイン語圏にはサッカーや野球の強国が多いですが、そこに様々な歴史と個性が刻まれていることを知れば、観戦の楽しみも増すことでしょう。

スペイン語圏には、独特かつ豊かな文化が横たわっています。スペインはヨーロッパの一部ですが、その周縁に位置するため、異文化との接触・葛藤が絶えませんでした。それゆえ、他の西欧諸国とは趣の異なる文化を培いましたが、とくに 8 世紀の永きにわたるイスラーム文化との共生は決定的な要因でした。スペイン語文学の精華としては、近代小説の扉を開いたセルバンテスの『ドン・キホーテ』が挙げられます。また、ラテンアメリカには植民地時代の風俗が残り独特の香りを感じさせると同時に、近代的な都市には世界最先端の文化が溢れています。ノーベル文学賞を受賞したコロンビアのガルシア・マルケスやペルーのマリオ・バルガス・リョサをはじめとする中南米の現代作家たちは、こうした現実を糧にして独創的な作品を次々と発表し、世界の文学界をリードして来ました。

スペイン語は、発音の面では、日本人にとって取り組みやすい言語です。日本語と同じく 5 母音体系で、発音が難しい子音も少なく、綴りと音もきっちりと対応しています。一方、文法面では、豊かな動詞活用の習得に根気が必要となります。一つの動詞が時制や主語などによって 78 変化（!）するのです。しかも、不規則動詞も沢山あるのです。長い道のりですが、1 年間かけて文法をじっくりと学んでいきましょう。

私たちスペイン語部会は、皆さんがスペイン語を楽しく効率的に学べるよう、1 年生用の統一教科書『Brújula（スペイン語学習の羅針盤）』を作成し、履修する皆さんが全員一定のレベルに到達できるように工夫しています。また、小テストの頻繁な実施を通じて基礎文法と語彙の習得を促します。もっと勉強したい方には、会話・作文・読解・実習などのクラスやネイティブ・スピーカーの教員とともに実践的なトレーニングを行うインテンシヴ・コースも用意しています。なお、インテンシヴ・コースの単位取得は、グローバル教育センター（GlobE）が定める「GLP-II（TLP）」の修了認定の要件に算入することができます。

韓国朝鮮語

韓国朝鮮語は何と言っても日本にもっとも近い隣国で使用されている言語です。また、日本には朝鮮半島にルーツを持ち、数世代にわたって居住している人々が多くいます。さらに日本と韓国との間では相互の人の行き来が盛んで、韓国朝鮮語を母語にする多くの人々が日本を訪れています。古代以来、日本と深い関係を持ち、これからも持ち続ける隣国について理解を深めることは、意義があることです。

隣国であるだけに、日本では日常的に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国に関するニュースや記事に触れる機会が多くあります。その中身はK-POPやドラマ・映画などの文化の面から、歴史に起因する問題や政治的・軍事的な緊張の面に至るまでさまざまです。文化の面では、2024年10月にハン・ガン氏のノーベル文学賞のニュースが報じられたことが、記憶に新しいところです。近年、日本では韓国の作家、特に女性作家の作品が多く翻訳されて共感を得ていますが、これを機に、原文で読むことにチャレンジしてみるのもよいかもしれません。

一方、歴史や政治的・軍事的な面に関しては、その難しさを痛感することがしばしばあります。しかし、粘り強く考えていくしかありません。そのためには、正確な情報にもとづいて状況を判断することが大事であり、相互のコミュニケーションが必要です。隣国の人々と疎通し、その考え方を知ることの重要性は、これからもずっと変わることはないでしょう。その一歩として、韓国朝鮮語を学ぶことは、日本の大学で学ぶ者にとって意義のあることです。

ハングルという独特な文字は、いつ、誰が、何のために、どのような原理で作成したか分かっていない世界的に珍しい文字です。とっつきにくいと思う人もいるかもしれませんが、一つの字母が一つの音を表し、子音字母と母音字母を組み合わせてひとつの文字を構成するもので、その仕組みを理解してしまえばそれほど難しいものではありません。最初の数回の授業で、個々の文字の音がわかるようになります。

また、韓国朝鮮語の文法は日本語のそれとよく似ており、語彙も日本語と共通の漢語が多くあります。ただし、似ているようでもよく見ると異なっていることもあります。文化の面でも二つの民族は似ていながらも異なっていることが間々あります。そこから、逆に日本の言語・文化を振り返って考えてみるのもおもしろいと思います。韓国朝鮮語を学ぶのは、隣国のことを学ぶためでもあります。同時に日本を振り返って見るためのものでもあります。その違いが微妙なだけに、韓国朝鮮の言語・文化は日本についてとらえ返す、とてもよい鏡なのです。

教養学部前期課程の韓国朝鮮語では、文法を中心とした一列・二列の授業のほかに、ネイティブ・スピーカの教員による演習、さらに集中的に学びたい人のためのインテンシヴ・コース、また作文・会話・表現練習・読解などの科目を用意しています。さらに、参加者数などの条件が整えば、ソウル大学での語学研修を実施します。

韓国朝鮮語の学習をつうじて見えてくることは、ここに書いたことにとどまらないでしょう。韓国朝鮮語とともに大学での学習を始めてみませんか？

イタリア語

イタリア語は、多くの要望に応じて 2007 年度に開講された一番若い初修外国語です。基本を習得済みなら、既修外国語としても選択可能です。ただし、イタリアの歴史や文化自体を直接の対象にしようと決めているのではない限り、「どうして、何のためにイタリア語？」と思う人もいるかもしれません。

この言葉はラテン語に連なるロマンス語の一つで、さまざまな方言的要素や、口語的、現代的用法を加えながら使用されつづけています。イタリア共和国と EU の公用語であるほか、スイスのイタリア語圏やサンマリノ、マルタ、ヴァチカン市国などで公的に話されています。イタリア語がわかると視界が断然広がる分野はたくさんあります。イタリア半島は、西洋文化の「オリジン」といわれるギリシャ・ローマの古典古代の時代から、中世、ルネサンスを経て今日まで、世界史上稀有な継続性をもつ文化を育みつづけた舞台なのです。イタリア語は、その半島の豊穡な文化史において、直接ラテン語に連なる近代語として用いられてきました。14 世紀にトスカナ方言をもとに、ダンテ、ペトラルカ、ボッカッチョをはじめとする詩人たちによって書き言葉として磨かれると、半島を越え、ヨーロッパの詩と芸術の重要な共通語となります。ボッティチェリやミケランジェロの名作が生まれた法王庁やメディチ家のフィレンツェをはじめとするルネサンス宮廷では、「復興」古典ラテン語とあわせ、イタリア語で文学や思想が語られ、レオナルドやガリレオにより新しい科学や技術の発見が記されました。モンテヴェルディの時代のオペラの誕生以来ヴェルディやプッチーニまで、イタリア語は歌の言葉でもありますし、20 世紀映画史にはフェッリーニ、ヴィスコンティなど、多くのイタリアの巨匠が名を連ねました。そして、グローバル化の時代への問いかけをイタリアから世界に発信したのが、グルメも食の貧困をも越える道を模索するスローフード運動です。世界遺産、歴史都市、食文化、建築、ファッション、デザイン、サッカー等、西欧の伝統と先端の交錯するその豊穡な文化へのパスポートがイタリア語というわけです。コロナ禍で改めて読み直されたのは、パンデミックと社会と人間の心理を 14 世紀に活写した『デカメロン』でした。

駒場のイタリア語スタッフは、駒場発の教科書、『Italiano…in Partenza!』（文法）と『Piazza』（読解テキスト）を通し、その「ヒューマニティ」の伝統の一端にふれつつ、まず現代に生きる「人間的」ネットワーキングやコミュニケーションスキルを身につけてほしいと願っています。論理的な文法と、耳に快い「音」（母音は基本的に「ア・イ・ウ・エ・オ」）を系統的に学ぶのは、知的経験としても刺激的なはずですし、ネイティブの先生たちとのたのしく実践的な学習は英語など他の言語の理解を深めることにもなります（「仮定法とはこういうことだったのか」「ラテン語からくる接頭辞の意味はこれか」「語源がわかった」etc）。ラテン語やフランス語、スペイン語に広げることも容易でしょう。

イタリア語をより集中的に学びたい人のためには、日本人教員とネイティブ教員による週に二回のインテンシヴ・コースがあります。また、春休みにはイタリア語を第二外国語として学ぶ学生全員が応募できるトリノ大学での語学研修も用意されています（二年に一回の開催で次回は 2026 年春です）。この研修は、語学のみならず、独自の進化を遂げているイタリアの社会と文化についてより深く学ぶ機会を提供します。

というわけで「どうしてイタリア語？」のこたえは、まさに多様です。勉強しながら見え

てくる世界、そこから得られる「ヒューマニティ」と「教養」は、あなたにとっても、広くて深いはず。A presto! (ア・プレスト——春のコマバで近々お会いしましょう!)

日本語

留学生のみなさんは、これまで日本語をかなりの程度学んだ上で、東京大学に入学していることでしょう。もしかすると、「日本語はもう十分学んできたので、これからはもっと別のことを学びたい」と思っている人、あるいは逆に、「日本語をさらに勉強して、母語話者以上に日本語が上手になりたい」という目標を持っている人もいるかもしれません。

それは、ともにすばらしい意気込みです！ しかしこれまでみなさんは、言語として日本語「を」学んできたことと思いますが、大学に入学してからは、様々なことがらを日本語「で」学んでいくことになります。日本語「を」学ぶことと、日本語「で」学ぶことの違いについて、考えたことはありますか？

日本語で表現されたことをそのまま理解できること、自分のアタマのなかにあることを日本語でそのまま発信できることは、学問の一步ではありますが、それだけでは何も生み出すことはありません。理解した内容やこれから発信しようとする内容に対し、解釈・評価を経て何かを付け加えていくこと、そしてできれば新しい価値を生み出していくこと、それこそが「学問」の目指すことなのです。

そのためには、自分ひとりで考えるだけでなく、「周囲の人々とともに考えること」がとても大切となります。他の人は、自分とは異なる価値観（考え方の基本的方針）を持っています。自分にとって理解しがたい価値観を持つ人と接するのはなかなか辛い体験ですが（大学ではよくあることです）、そのような人とも真剣に向き合い、そこでどう振る舞うのがよいかを考えることは、みなさんの人間としての成長に大きく貢献することでしょう。

日本語「で」学ぶ、とは、そういうことです。そして東京大学教養学部の日本語科目が重視していることは、日本語を使った活動の中で、上で述べたようなこと（解釈・評価、価値創造、異なる価値観との出会いと調整等）を経験してもらう、ということなのです。

こうした考えに基づき、私たちは留学生のみなさんのために、多様な日本語科目を提供しています。基礎科目としての「日本語一列」「日本語二列」では、アカデミックな話題に基づき、日本語を用いた様々な知的活動を行う中で、「現象・問題や他者の意見を的確に理解し、論評する」、「議論を通じて新しい価値を生み出していく」などのことを体験していきます。また総合科目Ⅰ系列（国際コミュニケーション）としては、読解・ライティング・発音等、特定のスキルに焦点を当てた多様な科目を提供していますので、その中から自分にとって興味のあるもの、必要としているものを選択して履修できるようになっています。もちろんこれらの授業においても、日本語「で」学ぶ、という基本理念は通底しています。

日本語が母語でない、ということは、実はひとつの「強み」だとも言えます。日本語が母語でないからこそ、母語話者には気づきにくいことに気づける、ということもありますし、母語話者に対し「そういうもののみかたもあるのか」という気づきをもたらすこともあります。日本語を通じた社会的活動の中で、日本語以上の学びを得ていってもらえることを期待しています。